

2016年10月24日

各位

積水ハウス株式会社

「第2回ウッドデザイン賞」3部門全てで受賞

積水ハウス株式会社(本社:大阪市北区、社長:阿部 俊則)は、10月24日(月)に発表されたウッドデザイン賞運営事務局(後援:林野庁)主催の「第2回ウッドデザイン賞」におきまして、3つの表彰部門「ライフスタイル部門」「ハートフルデザイン部門」「ソーシャルデザイン部門」の全てで受賞しました。

なお、12月8日(木)には全受賞作251点の中から最優秀賞として「農林水産大臣賞」1点の他、各部門で特に優れたものを優秀賞として「林野庁長官賞」数点、各部門で今後に期待できるもの、優秀賞候補になりえるものを奨励賞として「審査委員長賞」数点、特別賞などが発表される予定です。

※ウッドデザイン賞は、木の良さや価値を再発見させる製品や取り組みについて、特に優れたものを消費者目線で評価し、表彰する新しい顕彰制度です。これによって、“木のある豊かな暮らし”が普及・発展し、日々の生活や社会が彩られ、木材利用が進むことを目的としています。

木を使って暮らしの質を高めているものが対象の「ライフスタイル部門」、木を使って人の心を豊かにし、身体を健やかにしているものが対象の「ハートフルデザイン部門」、木を使って地域や社会を活性化しているものが対象の「ソーシャルデザイン部門」の3つの表彰部門を設けています。



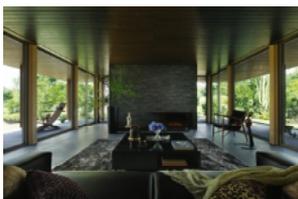
JAPAN WOOD DESIGN
AWARD 2016

☆ライフスタイル部門受賞作品

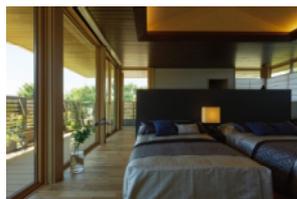
『内と外を国産材でつなぐ クリアビューデザイン』

【概要】「クリアビューデザイン」は、木造住宅商品シャーウッドにおいて建物の内外が一体化したデザインをコンセプトとし、屋外と屋内に国産木材等を用いた空間提案です。外部の軒裏と内部天井のレベル差をなくした一体感のあるデザインと、天井まで達する開口により、光・風・視線が透き通る心地よい空間ができます。さらに、国産木材等を用いて軒裏と天井の素材感を揃えることで、内と外を曖昧にした連続性の高い空間を創造しました。また、木造住宅でありながら連続した大開口が可能であり、開放性をより一層際立たせた空間とすることが可能です。この連続大開口と、内と外を国産木材等でつなぐことで、「クリアビューデザイン」を実現しました。

【アピールポイント】屋外に求められる性能(耐候性)と屋内に求められる性能(空気環境)は、使用する環境が違うため異なります。本仕様では、それぞれ求められる性能を満たす国産木材等を用い、素材感や色味、目地寸法等の意匠を揃えることで内外の一体感を持たせました。また、量産住宅では設計困難であった屋外軒裏レベルと屋内天井レベルを合わせることを可能にしました。さらに、サッシ上端を天井レベルに揃えるとともに床の段差も解消することで、ユニバーサルデザインへの配慮に加えて素材の一体感や内外の連続性がより一層高まりました。もちろん国産木材等から生み出される温もりや心地よさも感じられ、これまでにない住空間デザインを実現しています。



開放的で心地よい内外一体化の空間



段差の無いフルフラットバルコニー



水平ラインを強調した風格漂う外観

☆ハートフルデザイン部門受賞作品

『江東亀戸サテライト グローバルキッズ堅川園』

※株式会社グローバルキッズと共同応募

【概要】江戸時代より木材流通の重要な拠点であった木場、現在でも貯木場や製材所が多い新木場を擁し、木との繋がりが深い江東区。そんな土地に根差す、木に包まれた園舎を計画しました。壁・天井に国産材をアクセントに使い、木ならではの感触の柔らかさ、色味の温かさ、木目の多様さを感じられる空間にしました。本来の使い方に加えて、集成材を内装材に用いることで、国産材の活用の幅を広げました。内装仕上げ材として活用することで、断面の表情に変化が出てモダンな雰囲気のデザインも可能となりました。また強度を改善して建具枠にも使用しています。外部には樹木を配したウッドデッキをめぐらせるなど、自然と身近にふれ合える仕掛けも盛り込んでいます。

【アピールポイント】保育施設は子どもが一日の大半を過ごす重要な生活の場です。そのため、玄関ホールは公園、ランチルームは森をイメージしてデザインするなど、木を活用しながら空間の個性をつくり出し、子どもたちの感性を刺激する豊かな空間を計画しました。さらに「木育」の仕掛けも施しました。例えば1階廊下に設けた木の掲示板「コミュニケーションボード」は、桜やイチヂク等生活に馴染みのある様々な樹種で作りました。これにより散歩に出かけた際に、外に立つ「樹」と保育園にある「木」の繋がりについて話すことが出来ます。大地から伸びる樹へと思いをめぐらせるようなデザインを施し、木育を通して豊かな五感と心を育む場としています。



木をイメージした家具のあるエントランス



コミュニケーションボードのある廊下



軒裏、手すりに木を用いたアプローチ

☆ソーシャルデザイン部門受賞作品

『巣箱作り体験教室』

【概要】「巣箱作り体験教室」は、東日本大震災被災地での環境学習の一環として、保育園・幼稚園・小学校を対象に継続している活動です。保育園や幼稚園で実施する際には紙芝居も取り入れ、「巣箱作り」を通じて森や生き物への理解をより深めてもらえるように心掛けています。参加者からは楽しかったという喜びの声に加えて、「自宅の庭に設置した巣箱に鳥が実際にやってきて、家族で会話が生まれた」「森や生き物に対する関心を持つきっかけになった」等の感想があり、環境学習を通じた子どもへの情操教育効果や家族の絆を深めるきっかけを作る等の成果がありました。当初は東北地方を中心とした活動でしたが、現在では全国に広がっています。

【アピールポイント】活動が始まった岩手県では、震災により多くの緑が失われました。このことから、日本の将来を担う子どもたちに、生物多様性や森の大切さをわかりやすく伝えたい、という思いが強まりました。これが「巣箱作り体験教室」開始のきっかけです。巣箱の材料には、岩手県宮古市の材木店から間伐材を取り寄せて使用しています。岩手県の子どもたちは、地元の間伐材で出来た巣箱と森からやってくる鳥を通して、自宅の庭や自身と森の繋がりを実感、体感することができます。本活動は、森林の適正管理に貢献するとともに、東北経済復興にも繋がっています。



子ども達が作った個性あふれる巣箱



巣箱作りの様子



巣箱作りの様子